

《 2014年初漕ぎ盛大に開催！ 早慶レガッタの支援を！ 》

例年通り、1月11日(土)に、戸田ポートコースで、碧水会の初漕ぎイベントが開催されました。今年は、ナックルとエイトに絞った初漕ぎでしたが、「新春お楽しみタイムレース」と称したイベントを行い、それぞれ4クルーがエントリーして、ただ漕ぐだけではなく、300mの距離で、年齢ハンデ換算でのタイムで勝敗を競い、大いに盛り上がりました。ナックルは、最年長クルーが優勝、エイトでは、現役が半分乗ったクルーが優勝。

懇親会は、昨年に引き続き、埼玉県艇庫の2階食堂で開催し、現役学生の手作りによる豚汁とおにぎりに加え、タイムレースの話題などで、笑い声が絶えませんでした。

総務委員会では、現在、月に1回、早慶レガッタ運営委員会に出席し、4月13日(日)に開催される第83回早慶レガッタの支援業務を行っています。広告支援にご協力頂いた方々に、厚く御礼申し上げるとともに、当日の支援業務への更なるご協力もお願いいたします。 < 編集者:小寺浩二・編集責任者:吉田新一 >

青春時代の香りを感じて

副会長 井窪 裕之(1975年卒)

2012年、高見前体制から鳥羽新体制にかわり、「現役支援とOBの為のOB会」を基本方針として既に一年余り経過しました。OB会としての活動も、多くの方々の協力を得て、徐々に活発化してきていると感じています。特に「OBの為のOB会」という意味では、土屋催事委員長(S56)、高橋碧水会 RC 主将(S52)ほかの努力により、レースに出場する機会が増えてきています。OBの皆さんが、年齢を忘れてボートを楽しむ姿は、正にボート回帰であり青春回帰です。

この電子版機関誌「暁」は、関東地区だけでなく、日本全国、全世界でボートを漕がれている(ボート回帰)OB各位の近況報告に活用していただければと思います。是非、投稿ください。総務委員会、広報委員会に代わってお願いいたします。

私たちS50年卒も日頃の運動不足を克服して、昨年秋には、宮ヶ瀬湖紅葉レガッタに出場しました。500Mがこれほど長い距離だとは、思いませんでした

が、そのあと吉田先輩(S44)アレンジのバーベキューで美味しいビールを飲むことができました。私は、戸田と相模湖しか練習したことはありませんが、鶴見川でも練習できるとのこと、これから機会があれば、参加したいと思います。理工ボート部OBの皆さん、是非、ボートを漕いでいただき「青春時代の香り」を感じてください。また、その瞬間の気持ちを「暁」で伝えてください。



< 40名を超える人数で盛大に開催された2014年初漕ぎ >

初漕ぎにあたってのご挨拶

2014 年 1 月 11 日
早稲田大学理工漕艇部 OB 会 会長 鳥羽博司

皆さん、新年明けましておめでとうございます。
昭和 50 年(1975 年)応用化学卒業の鳥羽です。
初漕ぎ、お疲れ様でした。

さて、昨年後半より日本でも少しずつ明るい話題が新聞やテレビのニュースで流されていること、ご存知だと思いますが、その筆頭として、2020 年の東京オリンピック/パラリンピックの開催があります。このオリンピックに向けて、スポーツ界ばかりではなく、経済や産業と言った様々な業界も動きだしつつあり、今年がまさに、すべてのスタートの年です。

ここで、このスタートという言葉について考えてみますと、動き出した様々な業界は何に対して動き出したのでしょうか？2020 年のオリンピックという目標に向かってですね。従ってスタートと言うことは、明確な目標があるということになります。

本日の初漕ぎは、我々理工ボート部や碧水会ローイングクラブの今年のスタートです。では、そのスタートに対しあるべき目標とは何でしょうか？

現役諸君の中に、この場でスパッと今年の明確な目標を表明出来る人はいますか？

私自身、OB 会長として、今年の OB 会活動の目標については現在思案中で、この場で表明出来ませんが、それは未だスタートが切れていないからです。つまり、スタートするための準備が未だ整っていないということです。

ボートの試合においてはどうでしょうか？明確な目標が無ければスタート出来ませんか？

少々回りくどい言い方になってしまいましたが、お解りでしょうか？

昨年現役諸君の出場したレースの幾つかを見てみると、私自身が現役の時に出場した幾多のレースがそうであった様に、スタートへの準備が整っていないことが明らかな状態で、臨んでいた試合がありました。

最後になりますが、今年は、監督・助監督やコーチら指導陣の指導を仰ぎながら、明確な目標を持って、スタートへの準備を可能な限り整えて、レースに臨んで頂く事をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

以上

マシンローイング大会報告

催事委員 高島 洋一 (1981 年卒)

2 月 16 日に鶴見で開催されたマシンローイング大会に原川さん(S44)、高島(S56)、中平(S57)の 3 名が参加致しました。

この大会は横浜市ボート協会の主催で、今年が第 9 回となりますが、普段練習している鶴見漕艇場のすぐ隣で行われることもあり、力試しとして出場致しました。(原川、中平 1000m、高島 2000m)

今回の参加者は、最終的に個人戦で約 150 名、団体戦で約 15 チームでしたが、普段の乗艇で顔を合わせる方も多く、アットホームな雰囲気での大会でした。

大会の形式は、1 組につき 10 人が出漕します。基本的には個人のタイムトライアルですが、10 人それぞれの進み具合を示すモニターも表示されているので、残りの距離も判り(なかなか減りませんが)、また高校のボート部員たちは仲間うちでのレースともなって、元気な声援が飛んでいました。

レースは 1000m の部から始まり、3 組目に中平さん、6 組目に原川さん、7 組目に高島が出漕しました。

自分の番まで他の方々の様子を見てみると、やはり後半にたれる方が多く“最後までもつかない”と不安になりましたが、すぐに否応なくスタートとなってしまいました。

私の組には同年代の方のほか、学院のボート部ほかの高校生が 3 名おり、彼らはさすがに早く、スタートダッシュが終わった時には水が開いてしまいましたが、私はペースを守って淡々と漕ぐことに専念です。

最初の 500m までは長く感じましたが、後ろに記録係で林さんが付いてくれ、ずっと声を掛けて頂いたのも励みになって、なんとか 2000m を漕ぎ通しました。※ちなみに高校生は 6 分台でした。

どうなることやらと思っていましたが、終わってみれば、苦しくも楽しいイベントでした。

来年は皆さんもチャレンジしてみませんか。



(左から 中平、高島、林)

レースへのお誘いとお願い

碧水会 RC 主将 高橋 康夫 (1977 年卒)

お願い事項が幾つかあります。皆さんお忙しいかと思いますが、積極的な参加をお願いします。先々の予定が立たない人も意思表示だけをお願いします。

途中で都合が付かなくなった場合は、その時点でキャンセルしてもらって結構です。(穴埋めは何とかします。)

その1 第48回 横浜市民ポートレース

全日本マスターズの前哨戦として、または練習の一環でみなさん奮って参加をお願いします。エイト・クオード・ナックルにエントリーする予定です。

今年は、全日本マスターズの前哨戦、できれば鶴見で練習したいところですが、距離350mなのでぶっつけもありかと思えます。ナックルについては参加者数によっては2クルー以上も。

参加表明は2月いっぱいをお願いします。

記

日時：平成26年4月6日(日) 8:00~16:00

会場：横浜市鶴見川漕艇場

〒230-0004 横浜市鶴見区元宮2-6

TEL045-582-8680)

申し込み期限：3月8日(土)

【参加登録】は下記に記入願います。

<http://densuke.biz/list?cd=eL5aPQnKZa2TMpLZ>

その1 第7回 全日本マスターズレガッタ

碧水会 RC は昨年に引き続き全日本マスターズレガッタに参加します。

場所は近場の群馬県館林市 城沼ポートコース(東京からの日帰りも可能) 前日の練習も可能です。

- ・初日(5/24)は、エイト、クオード、W スカルのエントリーを予定。
- ・2日目(5/25)は、ナックルは Fun レースという事で、年代ごとのエントリーが良いかと思えます。
- ・パーティーは基本全員出席です。(ナックルのみでも、出漕料に含まれます)

まだ間に合いますので追加の参加お待ちしております。

記

日時：平成26年5月24日(土)~5月25日(日)

場所：群馬県館林市 城沼ポートコース

出漕申込期限：3月30日(日)

■男子種目：距離 1,000 m

エイト、舵手付フォア、舵手付 クオドルプル、ダブルスカル、シングスカル、

■女子種目：距離 1,000 m

エイト、舵手付クオドルプル、ダブルスカル、シングスカル、

■男子種目 ■女子種目 ■男女混成種目：

距離 500 m

ナックルフォア

年齢カテゴリー(舵手 除く平均)：+A：27歳~35歳、+B：36歳~42歳、+C：43歳~49歳、+D：50歳~54歳、+E：55歳~59歳、+F：60歳~64歳

年齢カテゴリー(舵手 除く平均)：+A：27歳~35歳、+B：36歳~42歳、+C：43歳~49歳、+D：50歳~54歳、+E：55歳~59歳、+F：60歳~64歳

60歳~64歳

【参加登録】は下記に記入願います。

<http://densuke.biz/list?cd=msDZAVftSttaAk4P>

その3 早慶レガッタ支援

各OB宛てに総務委員栗原さんから協力依頼のメールが行っているはずですが、碧水会 RC として全面的に支援したいと思います。

昨年同様に当日のお手伝いをお願いします。

水上警備をするとレースの様子が間近で見られ、最終レースに合わせて撒収するので、対抗レースの伴走ができます。

五大学レガッタへの参加について

碧水会 RC 土屋 信之 (1981 年卒)

早稲田大学、理工学部出身 小保方さんの、STAP 細胞すばらしいですね。近い将来ノーベル賞ですね。

次は理工ポート部でオリンピックでメダルですね。

さて、下記添付の通り、東工大の弾塚さんより、五大学レガッタの招待が来ています。五大学とは、東工大、外語大、防衛大、海洋大、筑波大ですが、東工大には、関東理工科系レガッタ等でお世話になっており、招待を受けたく思っています。

とはいえ2000mのレースです。今年初めて、OBの2000mを実施するようですが、東工大のOB会としては並大抵の決意ではないと思えます。

当クラブとしても、2000m漕ぎきる(個人、クラブとも)体力を付ける必要もあります。既に、500m、1000m、7000mのレースは出ておりますので、残すは、2000mです。

碧水会 RC の皆様、挙手をお願いします。改めて、皆様の意見を伺います。

碧水会役員会の皆さん バックアップよろしくお願いたします。

冬の現役活動報告(1)

基幹理工学部1年 中野 大輝

OBの皆様、日頃より現役の活動に多大なるご支援、ご声援ありがとうございます。この冬の現役の活動についてご報告いたします。

このオフシーズン現役は監督陣の方針の下、小艇、またはフォアに乗艇し、低ピッチで漕ぎこむことを中心とした練習を進めています。基礎体力の充実と正しい漕ぎの定着を目的としたものです。朝4時に起床しての練習は、寒さが厳しく、また日が出るのも遅いため辛いですが頑張っています。艇についた水滴が凍る、練習が終わるまで明るくならないなんてこともあり、初めての冬季練習を迎えた1年生はびっくりしています。しかし、秋の大会に出場しなかった1年生が練習に来るようになる、マネージャーの食当など、昨年に比べ合宿所に活気が出てきているそうです。とても嬉しいことです。

乗艇だけではなく基礎体力の充実を目標に各部員、授業の合間の時間でエルゴマシーンやランニング、筋力トレーニングなどの陸上トレーニングに励んでいます。筋力トレーニングに関しては春からフィットネス業界に就職される村田前主将の正しい筋トレ講座なども行われ、よりいっそう充実したものとなっています。また、毎週火曜日の合トレでは漕手のみならず漕いでいない部員やマネージャーも含めてランニングを行い、駅伝大会に出場するなど部全体での活動も活発になっています。

そして、1月19日には全国マシンローイング大会に男子6名、女子1名が出場しました。自己ベストを出せた人もいれば、思うようなタイムが出なかった人もいます。この結果をめやすとして、春に向けてもう一度気を引き締めて残りの冬を過ごしていきたいです。



冬の現役活動報告(2)

法学部1年 谷口 友美

いつもご支援いただいているOBの皆様に改めて深く感謝申し上げます。部全体のイベントについて報告させていただきます。

昨年の12月15日に調布の味の素スタジアムにおいて京王アニバーサリー駅伝が開催され、理工漕艇部は男子本気チーム「M4」(長尾、真島、片山、中野)、男子チーム「TOSHIO」(佐藤、加瀬、兒玉、村田)、女子チーム「得意料理模索中」(岩下、田中、谷口、崔)(走者順)に分かれ参加いたしました。

この京王アニバーサリー駅伝は1人あたり5km走り、4人で20km走るもので、スタジアムは想像以上の参加者で埋め尽くされており、大盛況でした。

この駅伝大会に参加するに至っては、現役漕手、マネージャーに関係なく西早稲田キャンパス周辺のランニングを行いました。

駅伝の結果は「M4」が一般男子418チーム中77位、「TOSHIO」は418チーム中277位、「得意料理模索中」は一般女子34チーム中31位でした。

大学の陸上部などの強豪チームがひしめき合う中、理工漕艇部一丸となって、力を出し切りました。

これから、春に向けて、追いコンや新入生歓迎会などの様々な大きなイベントが待ち構えています。そのため、このような活動を通して、現役の理工漕艇部員同士のつながりが一層強くなっていけばいいなと思っています。



<リレー随想>

「誇らしい一日」

土屋 信之(1981年卒)

去年の7月頃の事です。碧水会RCのエイトが10時ごろ岸けりをして、上流500m位、ウォーミングアップ中のことです。「ガチャン、キャー」という音、女性の悲鳴が聞こえました。悲鳴の方向を見ると、100m右後方、SSとWSが正面衝突をした直後でした。

碧水会RCのエイトは、艇を留めて様子を見ています。双方のスカルとも動く気配がありません。よく見ると、SSのSサイドのオールが折れてどうすることもできず漂っています。「これはいけない」と、「白馬に乗った騎士」いや「エイトに乗ったおじさん達」はクルリと艇を返し、素早くかつ慎重に艇を近づけました。

うまく捕まえなければSSが沈みます。「いつもは不安なコックス吉田さんの舵」ですが、このときの操舵は正確でした。女学生は「船にぶつけないでください」と叫びます。可哀想にオールを折ってしまったので、自分より、船のことを心配します。SSのSサイド後方から、エイトをバックローで近づけ、Sサイドのリガーをコックスが捕まえ、6,7,SでSSのスターンを押さえて、SSを確保。素晴らしいクルワーク。言わずともできる熟練の技。そして、B4でゆっくりと漕ぎ、岸けりした場所まで曳航して進みます。「怪我は無い?」「大丈夫です」「良かった!!浦和一女?」「そうです」他方のWSもエイトについてきています。「WS怪我はない?」こちら「ありません」「良かった」。

SSの女学生はシクシク泣き始めました。「おじさん達に助けられ、悔しいのかな」と「トンチンカン」ことを整調土屋は考えて、「こういうことは、おじさん達の仕事だから」とこれまた、「トンチンカン」なことを言わずにさめました。後ろの芦澤さんからも「大丈夫だよ」と声がかかります。いよいよ、岸に近づきました。先生は心配そうな顔をして待っています。先生がSSのBサイドオールを確保したとたん、彼女は「ウワー、ウワー」と号泣。しばらく動けません。「衝突してしまった驚き、オールを折ってしまった自責、そして恐怖、心細さ」から開放された号泣です。ボートが嫌いになったりしないか、エイトの優しいおじさんたちは心配です。いつも厳しい練習に耐え、常勝文武両道の浦和一女のお嬢さんも、可愛い乙女だったので。

先生にお願いすると、碧水会RCのエイトは、クルリと艇を返し「風のように??」漕ぎ去りました。漕兄諸氏からは当然のことをしたまでとご指摘受けるところですが、なんだか「誇らしい」気分になりました。

その後練習途中今度は、5番の渡部さんが腹切りして荒川に落ちるというアクシデントがありました。渡部さんは、沈んだ状態で15m後ろまで取り残され、浮か

でこなかったらどうしようと思ったとき渡部さんの顔がぽっかりと浮かび、笑顔、皆ほっとしました。よく見ると、5番リガーのバックステーが曲がっており、納艇後、東京海上の別府さんのところに持って行き熊谷さんと土屋で修理。他クルーは先に国谷で食事。二人でもどって回天にバックステーを取り付け、国谷に向かいました。

途中、埼玉県艇庫の前に先ほどの浦和一女の先生がいて、女学生を見送っていたので声を掛けました。先ほどの青ざめたお顔とは打って変わった笑顔。「浦和一女の先生ですか」「はい、そうです」「先ほど衝突した方は大丈夫ですか」「大丈夫です」「良かった」「助けていただきありがとうございます」「今、学生を早稲田の艇庫にお礼に向かわせました」「いや、あれは早稲田理工のOBなんですよ」「そうなんですか、失礼しました」「シングルスカルが逆コースだったみたいですね」「練習に熱が入り、熱くなったようです、あの子は、インターハイのクオドの選手ですが、今日は関東ブロックのレースがあり他のメンバーはそちらに出ています。残ってSSで練習していました、ありがとうございます」「そうですか、怪我が無く良かった、失礼します」

渡部さんが、リガーを曲げなかったら、すでにビールを飲んでいて、先生にお会いできませんでした。不思議な?! 無事が再確認できて、良かった。

その後、毎度の国谷で乾杯。「オールが折れたのに、沈まないなんてすごいね」「間違っ

て早稲田にお礼に行きたみたいよ」「まあ、早稲田のボート部ということでいいんじゃないの」「そうだね」また、乾杯。

碧水会RCとして、少し誇らしい一日でした。

土屋総監督様

こんにちは。10ウン年前は乙女だった(?)野澤です。

この度は母校の後輩のピンチを救っていただき、ありがとうございました。碧水会エイトに曳航されている浦和一女SSは目撃しましたが、そんな事になっていたとは知りませんでした。またエイトの5番のW部さんも、ご無事で何よりです。

乙女時代、私は浦和一女でダブルスカルを漕いでおり、全てにおいて力任せだった乙女は、リギングでもあらゆるネジを力いっぱい締め、乗艇練習をもりもりしていたところ、フィニッシュの衝撃で(?)整調(野澤)のリガーの付け根がポッキリ折れてしまいました。ナットの締め付け過ぎによる金属疲労でした。

当時はそんなこと思いつくまもなく、呆然としてしまいました。幸い、ダブルのパウは何ともなかったのですが、パウが漕いで艇庫まで戻ることができましたが、もしあれがシングルスカルで、荒川だったら・・・

白馬ならぬ黄艇に乗った騎士を待つしかなかったかもしれません。10年以上も昔の話を思い出してしまいました。野澤

ともあれ、ボートは安全が何よりですね。安全に健康に、道具は大切に、これからもボートを楽しみましょう!

Rowing Technologist in Si Valley (2)
- Life in Bay Area, California, US -
米原隆夫 (1977 年卒)

シリコンバレーは、昔はゴールドラッシュの地、北カリフォルニア州のサンフランシスコ湾周辺に、今では世界に冠たるハイテック企業 (Intel, Apple, HP, Google, Yahoo, Tesla, SUN and etc.) の発祥地として、一獲千金を目指して世界中から腕一本で挑戦する、大変に稀有なところ。ソフトバンクの孫さんに言わせると、”世界の中心” だそうです。

2007 年にオバマ政権によって策定されたグリーンニューデールによって数十億円から百億円の予算を獲得してできた太陽電池のベンチャー企業 (今はスタートアップというのが普通) は、米国全土に 120 社もあったのですが、六年を経過した昨今では、毎年、毎月倒産して行きます。まさにツワモノどもの夢と挫折の地であります。その中で今も存続している二社は、私が二十年まえに発明し、当地にあるスタンフォード大学に移植して応用を模索した手法をそのまま踏襲しています。2009 年の秋、ある土曜日の朝、相模湖でシングルスカルを練習するためにむかう車に突然、その一つのベンチャーから電話があり、ハントされたのがことの始まりでした。

三十年奉職した、デジタルカメラの世界一のシェアを握る日本の大企業で、幾つかの社内ベンチャーを、自身の発明で率いて二十年、大組織特有の新技术に対する挑戦に限界を感じていた折、私のライフワークを発展させること、待遇もそれに応じたものであること、女房にも会社を見せることを条件に 2010 年の初めに移籍しました。勿論、不安はありましたが、リスクをとって世界の中心への好奇心と、そこで自己を追求したいという野心が勝ってしまった結果でした。それから二年ほど京都で、自身の発明を量産する装置を更に発明し、開発指導しながら、毎月渡米して、2011 年の秋に完成させ、その装置をシリコンバレーで立ち上げるため、その年の十月末に移住しました。

1982 年から二年ほど、東海岸のボストンに住んで、マサチューセッツ工科大学で研究員をして以来 29 年を経て、今度は西海岸で米国の会社で仕事をすることになったわけです。更には、スタートアップの、自らは生産する意志のないことに失望し、技術を売り抜けることに終始する姿勢に我慢ならず、ライフワークの発明を紙ではなく、本当にモノにするために、昨年夏に、近郊の世界最大手の半導体メーカーへ移籍しました。

日本では、我慢はある意味、美德であります。当地では弱さの結果と見なされるそうです。今年に

は日本の最大手と合併して東京本社ができることになりそうです。日本とアメリカの良いところを橋渡しして、融合できればと考えています。私自身が日米で教育を受け、北陸で生まれ、関東と関西に住んで仕事をし、米国の東西海岸に住み、日米の会社三社で働いてきた豊富な体験を生かして、ライフワークである自身の発明による新半導体プロセス、材料、デバイスに貢献できればと日々努力しています。

異文化の生活、英語だけの仕事に加えて、多人種との付き合いは、大変ストレスがかかります。インド人の英語は特別に早く、解読して議論が噛み合うのは永遠に不可能ではないかと思えるほどです。それを超えて、人類に普遍的な、人種を超えた価値観を発見した時の喜びと感動、共感と興奮は何ものにも代え難いものがあります。何よりも、私の飽くなき好奇心を満たしてくれることが、異国で生きることの一つの理由です。

当地では性別、年齢、人種を問うて、差別するのは御法度で、固く法律で禁止されています。そのため、停年制はありません。しかし、レイオフは日常茶飯事で、副社長級からテクニシャンに至るまで、自然現象かと思えるほど頻発します。米国全土で銃による死亡者数の総量は年間数万人にも及びます。しかし、ほぼ同数の人が、日本では自死する事実は両国の精神面の著しい差異を反映しているように思えます。当地ではレイオフされた者が上司を撃ち殺す事件が報道されています。アメリカはその発祥の歴史からして、移民の国ではなく、難民で成り立っていると認識しています。政治難民、宗教難民、戦争難民、技術難民、文化難民、被差別難民が、それぞれの夢をこの国に求めて次から次に押し寄せます。又、米国はこれによって、ハングリーを輸入して、社会に供給し続け、その若さを保ち、保守化と停滞を忌避し続けているかのようです。

学生時代のように激しく、週に三、四回も、朝五時半から出勤前に、ボートを漕ぎ続けていることは、前報に詳述しました。

キャッチでオールの撓りを体感して、サスペンションポイントを会得するために、エイトのペア漕ぎ等、独特のがあります。会費は年間 500 ドルほどで、更に競争的コースのコーチ費用 (200-400 ドル) 加えて、遠征費とレース参加費がかかります。全く独立したクラブ経営や、常にモーターボートで並走する選任コーチや質と量を考慮すると高額ではあるが、妥当と考えています。子育ても終わり、日本にある家も完済し、仕事の他にこれと行った趣味もなく、同僚と飲みに行くことは、一年に数回という土地柄がこれを許容しています。



Men's Competitive Sweep Members in Los Gatos Rowing Club

2000mのレース前には、詩を送って鼓舞し、レース後は抱き合って互いの健闘を讃え合い、勝利を分かち合うのは、初めは違和感を禁じ得ませんでした。少しずつ慣れて行くうちに、結構、共感できるものが生まれるから不思議なものです。

兎に角、組織的で、所属するクラブは四十年近くの歴史があり、100人の正会員と140人の高校生のジュニア会員がいます。50歳代の女子エイトは、この2年、世界最大の河レースであるボストン Head of the Charles で五位、18分前半で漕破し、ジュニア男子(高校生)の軽量級エイトは6分を切り、昨年、二度目の全米制覇を果たしました。50-60歳の男子マスターズの優勝エイトは2000メートルのレースで7分を切ってしまう。体格の差だけでなく、練習量の豊富さと漕艇術への飽く無き追求とその蓄積がそれを可能にしています。



Junior Eight Crew and the coaching boats on Lexington Reservoir

私が、戸田、荒川、チャールズ川、瀬田川そしてここレキントン湖で漕ぎ続ける最大の理由は、自身の発明人生において、常に反対しかなない守旧派と闘わねばならない、宿命的环境への闘魂の維持と練磨、そして孤独に耐えて貫徹する意志と勇気の根元を漕艇が与え続けてくれるからです。数百件の特許を登録して、それを実現し続ける、飽く無き探求心は漕艇が教えてくれました。極めてストイックな特異な

スポーツで他と一線を画する、特別なものです。私に取って、職業と同様、スポーツは神聖なものだと思っています。

高校まで六年間、バスケットボールを追求してきました。一瞬のアイコンタクトがそのパスワークの巧拙を決めると思っていますが、ボートはその対極にある不思議なスポーツです。付きフォア(石川、荒木、新籐、熊谷、米原)で全日本新人戦(1974)で三位になり、対校エイト(1975,6)の三番、七番シートで、クルーキャップとして全日本学生選手権(1976)を闘った記憶は忘れ難く、如何なる困難な局面からも逃げずに、真向勝負を挑む勇気の根源となっています。

パルテ会という同期(鳥羽会長とモンリオール五輪エイトを漕いだ磯氏や村山氏)が多い東京の社会人ボートクラブで熊谷助監督と二度、全日本マスターズのエイトを制し、2007年にはボストンのヘッドオブチャールズにパルテのエイトで、最近世界された東レ滋賀、桑野ボートの社長の古川さんと、三十年振りにチャールズ川で漕ぐことが出来たのは、感慨無量でした

家族には、私が過労で講演先の宿で倒れて、そのまま入院したり、苦勞を掛け続けて来ました。しかし、異国での人生も又、良き経験として我々の人生を豊かにしてくれていると勝ってに、思っています。

皆さんにも、この世界の中心、シリコンバレーで働き、漕ぐこと、北加州の紺碧の空と太陽、港町サンフランシスコの街並、百年に及ぶ、日本人移民の困難と試練などを知って頂きたいものです。同期の荒川くんの息子さんと、東北大学の対校エイトのクルーキャプテンだった荒川裕介くんや、彼の先輩でパルテ会員に入会してくれた中島くんの訪問を受け、年末には、理工ボート部出身でカリフォルニア大デービス校に留学している高安君が尋ねてきました。ボートを漕いだ事のある人は何時でも歓迎します。

皆さんも、プロフェッショナルとして世界の中心で挑戦してみませんか？



San Diego Crew Classic 7min.9sec./2Km, 2013 April, at Bow seat.

理工ボートの『活動理念』についてご提案

ビジョン委員会委員長 金谷 善治 (67年卒)

理工ボートのビジョン、理念について皆様からのご意見を戴きたく、ここ暁2号に1次案を記載させていただきます。

まず、何故理工ボートのビジョン・理念を取り上げているのか、ですが、次のような背景があります。元々理工ボート活動の中で暗黙の内に存在してきた理念(ビジョン)が時代と共にそのテイストが薄くなってきていること、再度求心力として表現することが必要とされていること、多くの新人を導く時に、或いは上級生が指導・説得する時に包容力のある思想的なバックボーンを与えること、更に我々が50年かけて、約700人のOBの共同作業で築いてきた「何のために理工ボート部を作ってきたか」という根源的視点に立ち返るべきとの意見もありました。

そこで、OB会内にビジョン委員会が発足し、

①理工ボートの持続的発展をめざした価値観の形成、
②現役とOB及びOB間のコミュニケーションの密度をあげる、ことを目的(仮設定)として、議論を進め、「活動理念」1次案を策定してまいりました。ここで似た言葉として、「理念」と「ビジョン」がありますが、策定プロセスで両者は分けて考えるべきで、まず上位概念である「理念」を策定すること致しました。一般に「理念」と「ビジョン」は厳密には別物とされ、「理念」は普遍的で、創業者達や後継者達の想いを表し、どのような価値観で行動するかを示すもの、一方「ビジョン」は5～10年先のありたい姿で、戦略的な方向性を詳細化するもので、トップが代われば見直されるものとされております。理工ボートの「ビジョン」策定では、監督、現役支援委員会、現役が主体となるものと想定され、今後その議論が始まることになる予定です。

今回の「活動理念案」がビジョン委員会の一方的な策定とならぬよう、多くの現役・OBと議論を重ね、皆に共感されうる合意形成を図ってまいります。

.....

この1次案及び本記事内容に関して、ご意見をビジョン委員にお寄せ戴ければ幸いです。

(ビジョン委員:柳内龍二 S39、大枝啓介 S42、那須原和良 S54、上野浩史 S61、清野隆司 H02、金谷善治 S42 y.kanatani@cnc.jp)

今後ビジョン委員会で2次案を作成し、案の整正化を図り、OB役員会にて審議し、最終的に本年OB総会に諮り、活動理念を確定していく予定です。

【理工ボートの活動理念(1次案)】

1) 標語

弱きものは歩け、健康なものは走れ、強きものは競技せよ。

2) 内容

① 逞しい人材を育てる

ボートを通して自ら考え行動する逞しい人材を数多く育んでいくクラブです。ボートを漕ぐことは手段であり、勝つことは目標で、人格の形成こそが目的です。

② 多様性を尊重する

理工ボート部には様々な人がいて、その人たちを大切にしているクラブです。自由闊達で多様なメンバーによって組織の活力と発展を生みだし、レース成績も勝ち取っていくことを目指しているクラブです。多士済々な、裸で語らえる数多くの生涯の友を得られるクラブです。

③ トップクラスへ挑戦する

ボートは大学から初めても、全国大会や世界選手権・オリンピック出場を目指せる数少ない大学スポーツです。理工ボート部は全国大会優勝や世界選手権・オリンピック出場を果たした実績のある、文武両道を地で行くクラブです。理工ボート部は、授業の合間に、キャンパス内で効率よく基礎体力、運動能力を培い、勉学も体力も共にトップクラスを目指すクラブです。

名古屋乗艇会のご案内

佐野 冬彦 (1979年卒)

以下の日程で、中京地域に住む方々との乗艇会を企画しています。ご家族共々、是非、ご参加下さい。

3月29日(土) 9時~12時 名古屋乗艇会

場所: 名古屋港漕艇センター

(最寄り駅: 名古屋市営地下鉄・港区役所)

世話人: 佐野冬彦(1979年卒)

連絡先 Fred1117sano@japan.email.ne.jp



落語と蕎麦の会蕎麦処「富安」
故澤田博雄さんを偲ぶ会

広報副委員長 山住 市郎 (1969 年卒)

蕎麦処「富安」カフェ「オリーブの樹」で落語と蕎麦を楽しむ会を開催します。故澤田博雄さんが桂右團治師匠 (早稲田法卒女性落語家 真打) を臍員にしていました。東日本大震災の時に他界し、忍ぶ会を予定していましたが震災により中止となりました。なにか心残りなので計画中しました。詳細決まりましたら改めてご案内致します。

連絡先 〒215-0012 川崎市麻生区東百合丘 4-31-6
TEL044-567-6025 携帯 090-9824-4363
小田急線新百合ヶ丘からバス又はタクシー利用。



澤田博雄さん一番左、真ん中右團治師匠

総務委員会からのお知らせ

総務副委員長 小寺 浩二 (1985 年卒)

1) 名簿整備について

現在、住所不明の方の名前一覧です。ご存じの方がおられましたら、総務委員会まで、お知らせ下さい。(E-mail: hekisuikai-somu@freeml.com)

63: 吉井滋, 斎藤欣二, 山田潔, 小泉達也, 小倉卓雄, 66: 細田彰, 仲田戒昭, 八木沢秀記, 鈴木啓太郎, 68: 西山宏明, 大川揚子雄, 69: 吉村寿一, 70: 堤 敏幸, 71: 榎島信二, 72: 佐々木則夫, 坂本雄二, 73: 岩崎陽一, 吉沼登志雄, 本田優, 74: 永原優, 後藤幸和, 高橋陵二, 小林秀紀, 柳沢孝行, 乙崎清, 葛西淑和, 大見修, 熊切秀雄, 大石良一, 長尾光男, 75: 荒木聡, 78: 金子尚弘, 石黒敦, 川畑正二, 小池斎, 堤英輔, 79: 沢野 勝己, 80: 久保孝, 83: 宮下訓, 84: 森園信二, 久保村知昭, 85: 高木隆, 87: 日比野俊行, 小森田哲也, 竹内尚, 廣田雅一, 澤田滋, 照山竜生, 88: 岡村信之, 金田安生, 江藤誠, 桜井健二, 秋道高志, 倉田浩, 村山敏宏, 佐竹文二, 唐木英行, 和田秀雄, 加藤秀明, 馬場正博, 89: 熊田浩, 大内潔, 藤田俊明, 宮沢徹, 90: 三原明, 木村 (杉田) 陽子, 森川聡, 92: 吉岡誠二, 錦戸宏司, 93: 廣松平, 94: 朝井欣哉, 藤原省悟, 内海

孝之, 岩持潤一, 志水祐, 前田益尚, 長沼隆治, 林一樹, 95: 菊地慎一, 荒木克洋, 山下雄一, 佐藤宏, 西松研, 洪井健, 杉原秀典, 西村利幸, 石山輝久, 96: 中丸隆二, 岡芹美織, 貝森 (加賀谷) 昌美, 97: 松本匡司, 石橋正邦, 内野豊臣, 広脇 雅美, 荒川訓子, 豊田祐子, 98: 笹島剛, 大関美穂, 杉野荘介, 糟谷裕輔, 長井足日, 西村美雪, 寺前寛子, 小松久美子, 小又いずみ, 99: 錦織智, 船津大介, 新家道泰, 深田治, 田口昌弘, 00: 高野潤子, 白波瀬 (小川) 奈々, 椿みのり, 01: 渡辺恵子, 長崎孝彦, 對木大介, 02: 井上雄一郎, 河野直美, 梶村宏一, 中川昌子, 梅田静恵, 03: 花輪由紀子, 青木由香, 04: 山本佳嗣, 名波谷英行, 池田真実, 05: 小川敦史, 柴田章広, 林田 (佐原) 理香子, 佐藤美佳, 06: 小川 (高島) 明日未, 都築漁人, 07: 尾藤文美

2) 今後の日程

- 3月 9日 (日) 卒業生追い出しコンパ
29-30日 お花見レガッタ
4月 6日 (日) 横浜市民ポートレース
13日 (日) 早慶レガッタ
29日 (祝) グリーン・五大学レガッタ
5月 24日 (土) ~25日 (日)
全日本マスターズレガッタ
6月 23日 (日) 関東理工科系レガッタ

投稿のお願い

広報委員長 吉田 新一 (1969 年卒)

広報委員会では、年 2 回 (4 月、10 月) の第 1 機関誌「稲雲」(カラー印刷) と、年 4 回 (2 月、6 月、8 月、12 月) の第 2 機関誌「暁」(電子版) の発行を予定しています。

随時原稿を募集していますので、広報委員会までご投稿願います。直接ポートに関係ないことでも、碧水会の皆様にアナウンスしたいことなど、どんな情報でもかまいません。どしどしお寄せ下さい。

広報委員会連絡先: hekisuikai-koho@freeml.com

会費納入のお願い

財政・会計委員長 池田 和夫 (1975 年卒)

本会の会費は、毎年 1 万円。原則として、前納制です。自動振替の手続きをされていない方は、以下の口座まで振込をお願いします。また、できるだけ自動振替をご利用願います。毎年 12 月の引落です。

<会費振込先>
三菱東京UFJ銀行
高田馬場支店



普通口座 0542113 早大理工ポート部 OB 会